

令和元年6月18日現在

機関番号：13901

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H06734

研究課題名(和文) 観光のまなざしと帝国 - 非劇映画のアーカイブ調査に基づく日本帝国主義の考察

研究課題名(英文) The Tourist Gaze and Imperialism: Re-envisioning Imperial Japan through Archival Research of Non-theatrical Film

研究代表者

小川 翔太(Ogawa, Shota T.)

名古屋大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：00800351

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：帝国主義の台頭と密接な関わりを持つ近代観光の歴史は、主として社会学や近代史の問題として論じられてきたが、当研究は20世紀前半の日本における帝国拡大と近代観光の関係を映像学の問題として捉えることを試みた。研究成果として、国内外の図書館やフィルムアーカイブで収集した情報を整理し、随時国際学会で口述発表するとともに、アマチュア映画言説とモダニズム写真言説の交流をまとめた論文を学術誌『Trans Asia Photography Review』に投稿、またフィルムアーカイブ史についての論考を編著『Routledge Handbook of Japanese Cinema』に投稿したことが挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上記の研究成果が持つ学術的意義として、国内外の視聴覚アーカイブに散逸した帝国期日本を巡る観光の映像の体系的な調査と、日本映画史の見過ごされた逸話としてではなく、20世紀前半のグローバルな映像流通の一端として位置付ける比較論的アプローチによる分析の2点が挙げられる。「旅行映画」研究に蓄積がある英語圏においても課題として認識されてきた比較論的な考察を、東アジアの帝国空間を取り上げて試みて、その妥当性を国際学会や論文投稿を通して確認した。社会的意義としては、公共機関を含むフィルムアーカイブで未調査のまま所蔵される映像の持つ文化的価値を国際的な枠組みで明らかにした点が挙げられる。

研究成果の概要(英文)：The interrelation of tourism and the Japanese empire has emerged as a popular topic of research in the fields of modern history and sociology. The purpose of this grant project is to extend this inquiry into film studies. In the first year, I have presented two papers in international conferences (SCMS, AAS). Drawing on multi-sited archival research I conducted in Japan and the United States, my papers discussed the interrelations between tourism industry PR films and amateur travel films. I have published my analysis of the overlooked communication between cine-amateurism modernist photography in the peer-reviewed journal, Trans Asia Photography Review (published in the following fiscal year) while my critical study of film archive theory will appear in the edited book, Routledge Handbook of Japanese Cinema (due for publication in late 2019).

研究分野：映像学

キーワード：ノンフィクション映画 非劇場映画 小型映画 トラベローク 観光宣伝映画 植民地朝鮮 フィルムアーカイブ 満洲国

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

当研究課題着想には、国内外の映像アーカイブに戦前の個人撮影海外旅行映像や帝国観光PR 映画が多くの場合未調査のまま所蔵されていることへの問題意識、そして英語圏の映像学研究、特に初期映画研究の分野で旅行映画の再評価が進む中、帝国期日本に関する同様の研究が欠如していることへの問題意識の2点を別の研究プロジェクトに取り組む過程で抱くに至ったことが背景にある。例えば、2012年から2014年にかけてインターンとして勤めた映画アーカイブ、ジョージ・イーストマン・ミュージアムでは、20世紀前半においてアメリカが海外植民地を擁する帝国として台頭する時代に現れた旅行映画興行パイオニアについて調査に関わる機会に恵まれた。同様に2016年に「旅行映画：近代、性、帝国」と題したパネルを米国の学会でチェアとして企画した際に、英語圏の旅行映画研究の動向を整理することができた。こうした体験を経て、当研究開始当初には、本研究の基軸を映像学における旅行映画研究に置きつつ、寄与する研究領域は広く近代文化史における帝国観光と限定した。

劇映画の研究が依然として主流である映像学において、旅行映画などの非劇映画 (non-theatrical film) は長く盲点となりがちであった。しかし、1990年代後半から展開された国内外のアーカイブにおける非劇映画の再評価・保存運動によって現在では体系的な研究が可能になっている。アマチュア映画保存をメインテーマに掲げた国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) の1997年総会を転換点に、日本の映画アーカイブでも記録映像保存センター、新潟大学地域映像アーカイブ、NPO 法人映像保存協会を中心に非劇映画の保存運動が近年隆盛してきた。国立映画アーカイブでも2010年からアマチュア映画の上映が開始されている。

こうしたアーカイブでの動向に触発された学術研究の数や幅に、国内外で大きな差が出ていることも研究開始当初に着目した研究背景である。旅行映画に限っても、英語圏では、Jeffrey Ruoff の編著 *Virtual Voyages: Cinema and Travel* (2006) や Jennifer Peterson の単著 *Education in the School of Dreams: Travelogues and Early Nonfiction Film* (2013)、さらにドイツにおける帝国観光と旅行映画について論じた Wolfgang Fuhrman, *Imperial Projections: Screening the German Colonies* (2015) に至るまで研究の幅がある。日本では、富田美香や郷田真理子によるアマチュア映画全般の先駆的な研究や、一連の満映 (満洲映画協会) 研究があるが、どちらも旅行映画を帝国観光の文脈でとらえたものではない。例えば、満映を総合的に調査した胡昶と古泉の共著『満映：国策映画の諸相』(1999) では、満映発足以前から満鉄 (南満洲鉄道) 広報部が製作した非劇映画については数ページの言及しかない。

他方、観光の近代文化史の領域では、満州事変を前後して急発展を遂げた日本における近代観光の研究に一定の蓄積が見られる。とくに近代の観光を「まなざしの政治学」と捉えたジョン・アーリーの単著『観光のまなざし』(1995年) に沿った貴志俊彦の単著『満洲国のビジュアル・メディア：ポスター、絵葉書、切手』(2010年) やルーズ・ヤングの単著『総動員帝国：満洲と戦時帝国主義の文化』(2001)、そして Taylor Atkins の単著 *Primitive Selves: Koreana in the Japanese Colonial Gaze* (2010) を始めとする観光を巡る視覚メディアが帝国主義を大衆に浸透させる役割をいかに担ってきたかを問う研究の台頭が目立つ。一次資料の整理も、荒山正彦監修『明治・大正の旅行』(2014年-) や和田博文監修『コレクション・モダン都市文化』(2004年-) に代表されるように散逸しがちな旅行案内書、グラフ雑誌、路線図などを体系的に収集した復刻版が出版されたことで一次資料を用いた実証的な調査環境はさらに向上してきた。旅行映画の重要性はヤングなどでも認められているが、映像資料の散逸とアクセスの難しさのため体系的な研究は見られなかった。

2. 研究の目的

本研究は、昭和初期の帝国観光ブームにおいて映画が果たした役割を調査することを目的とした。具体的には、(1) 国内外のアーカイブに散逸した文化映画、PR 映画、観光客自身が撮影したアマチュア映画の3種からなる「旅行映画」(travel film) を研究対象とし、(2) それらの受容を娯楽、教育、情動の側面から調査し、(3) さらに西欧における帝国観光言説と比較することで、「日鮮満周遊」と呼ばれた東洋人による東洋人に向けた観光のまなざしの特異性を分析した。帝国主義を内地の大衆生活に浸透させた近代視覚メディアの宣伝力は、社会的にも関心の高い問題だ。これに対して、これまで見過ごされてきた映像史料に着目し、映像学の見地から貢献することが当研究の大きな目標であった。

本研究の目的の独創性は、これまで映像学、フィルムアーカイブ、および観光の文化史の各文脈において研究対象とされることが少なかった帝国期日本を巡る旅行映画に着目し、同時代のグラフ雑誌、写真絵葉書、ポスター展などの印刷メディアとは一線を画した映像メディア特有の制作、流通、受容のあり方の究明を目指したことが挙げられる。旅行映画と帝国主義の関わりを東アジアの文脈で再考察することで、英語圏の映像学研究で陥りがちな偏狭な欧米中心主義的な考察を問題化し、よりグローバルな旅行映画の理解に向けた貢献をすることも心がけた。観光の文化学においては、所謂「下からの帝国主義」研究の領域にアマチュア映画作家や観光PR 映画を推進した新官僚などの新たな研究対象を導入することで、映像学の見地からの貢献を目指した。

3. 研究の方法

当研究で採用した方法論は、活字史料調査だけでなくフィルムアーカイブでの映像史料の調

査も含めた広い意味での実証的な文献学的歴史考証である。また、実証的調査で収集したデータの整理および分析にあたって、主に英語圏の先行研究を参照することで単に「日本映画史」の一端として旅行映画を位置付けるのではなく映画黎明期のグローバルな文化交渉を理解する布石としての旅行映画研究を試みた。

初年度には、とくに「日鮮満周遊」を記録したアマチュア旅行映画に特化し、次年度は、朝鮮と満洲を観光ルートとして表象したPR映画に特化して調査を進めた。さらに、(1)文献資料調査、(2)アーカイブ調査、(3)先行研究に沿った位置付けの確認、(4)発表の4つのステップに分けて各年度の調査を進めた。例えば初年度においては、(1)国内各地の図書館やアーカイブを訪れ、アマチュア映画・写真雑誌を網羅的に調査し、(2)神戸映画資料館、神戸市立博物館、アメリカ国立公文書記録局を含む国内外のアーカイブで視聴した映像情報を調査・整理(データベース作成)し、(3)国内外の旅行映画・帝国観光の先行研究を踏まえた論文を執筆し、(4)国際学会での口述発表の場やその他の映画研究者やフィルムアーキビストが集う場でフィードバックを得た。次年度でも、(1)国内外の公共機関で官公庁や外郭団体刊行物を調査するとともに復刻版やデータベースを含む戦前映画雑誌や雑誌の網羅調査を行い、(2)高麗大学、米国議会図書館、米国ジョージ・イーストマン・ミュージアム、神戸映画資料館、東宝ステラを含む国内外のアーカイブで視聴した映像の情報調査・整理(データベース作成)を経て、(3)非劇映画の先行研究に対して研究対象の位置付けを考察し、(4)国内外の国際学会で口述発表および論文執筆を進めた。

4. 研究成果

(A)日本、韓国、米国の映像アーカイブに散逸した「旅行映画」の映像及び関連文献を「通俗教育」「弘報」「宣伝」の枠組みで分析し、(B)映像情報の調査、整理を通して「大日本帝国」観光空間の映像表象の全体的な傾向を国外の先行研究を参照しつつ確認し、(C)フィルムアーキビストと意見交換を重ねることで文献学的アプローチから研究発表をまとめる着想を得た。研究成果・実績として、上記A、B、Cをもとに初年度、次年度ともに国際学会で口述発表を重ね、査読付き国際学術誌『*Trans-Asian Photography Review*』および査読無しの編著『*Routledge Handbook of Japanese Cinema*』(2019年末刊行予定)へ論文を投稿した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1件)

Shota Ogawa (単著) “Rerouting the Modernist Visions of Horino Masao: Territorial Photography, Mass Amateurism, and Imperial Tourism.” *Trans-Asia Photography Review* vol. 8, no. 2 (2018)、査読有

〔学会発表〕(計 5件)

Shota Ogawa “Territorial Media: Uneven Geography of Amateur Filmmaking in Interwar Japan,” *AAS (Association for Asian Studies)*, Denver, CO, March 22, 2019.

Shota Ogawa “Affect of Scale: Small-gauge Film and Tourism in Imperial Japan,” *International Mini-conference: New Horizons in World Cinema*, Nagoya, Nov 10, 2018.

Shota Ogawa “Projecting the Japan-Korea-Manchuria Travel Route,” *Visible Evidence*, Bloomington, IN, August 8, 2018.

Shota Ogawa “Bo(a)rders of the Imperial Japanese Screen: Amateur Film, Tourism PR, and the Japan-Korea-Manchuria Route,” *AAS (Association for Asian Studies)*, Washington DC, March 23, 2018.

Shota Ogawa “Border-Crossing Korean Blockbusters and Japan’s Border Envy: Revisiting the Korean Wave in Japan, 1989–2010,” *SCMS (Society for Cinema and Media Studies)*, Toronto, March 14, 2018.

〔図書〕(計 1件)

Shota Ogawa (単著) “Regional Film Archive in Transit: Yasui Yoshio and Kobe Planet Film Archive.” In *Routledge Handbook of Japanese Cinema*, ed. Joanne Bernardi and Shota Ogawa. Routledge. (2019年末刊行予定)、査読なし

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。